第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク元住吉南保育園（4回目受審）
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月4-1-30
設立年月日	平成25年4月1日
評価実施期間	平成28年11月～29年 4月
公表年月	平成29年 8月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	川崎市版
総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）	
<p>【施設の立地・特徴】</p> <p>【立地】 アスク元住吉南保育園は、東急東横線元住吉駅より駅前の商店街・飲食街を通り抜け徒歩10分弱の場所にあり、抜け道の道路に面していますが、周辺にはマンション・一戸建ての住宅があり静かな環境に恵まれています。 園舎は鉄筋コンクリート2階建てで、広い園庭と屋上テラスを備え、地中熱エネルギーを利用した空調システムを有しています。 また近隣には中原平和記念公園など7箇所の公園があります。</p> <p>【特徴】 園目標は「えがおいっぱい げんきいっぱい やさしさいっぱい」となっています。 平成25年4月の開園の保育園で、月極保育・延長保育・障害児保育を提供し、定員70名ですが1歳児から5歳児までの78名を受け入れています。 年齢・発達に合わせてクッキング保育・英語教室・体操教室・リトミックなどを取り入れています。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 子どもの意思を反映した遊び・運動会・発表会の展開 日々の保育では子どもの意思で、遊び・絵本・おもちゃなどを自由に選べるようにしています。園庭遊びでは子ども同士でルールを決めて遊び、運動会や発表会での衣装などは子どもの好きなものを選べるようにしています。 運動会では子どもたちの意見で、そうらん節をテーマにし、藍染めの衣装を作って楽しみました。生活発表会の劇は子どもたちの希望を取り入れて、5歳児は「桃太郎」、4歳児は「金のがちょう」、3歳児は「にんじん だいこん ごぼう」とし、せりふ、動きなど、子どもたちが主体となり、話し合っって作り上げています。</p> <p>2. 災害に対する消防署・警察署との対応 災害時に対する子どもの安全確保のため、地元の消防署には避難訓練時に通報訓練の協力をしてもらい、警察署には年に1度不審者対応訓練で不審者役を演じてもらうなどの協力をしてもらっています。自治会には加入していませんが、地元の消防署や警察署と良好な関係を築いています。</p>	

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 点検結果などの確実な記録と活用の円滑化

各クラスの安全点検はクラス担当職員が実施し、危険個所があれば園長に報告するようになっていますが、点検結果は記録されていません。点検結果を「安全チェックリスト」に記録し、昼礼などで報告し必要な対策を講じることを期待します。

また、保護者からの意見や要望を受けた際は専用ノートやファイルに記録し、職員間で共有し、データを集積し分析して保育に反映することが望まれます。

2. 保護者への情報の伝達の確実な実施

遅番職員は保育日誌や昼礼ノートを見て連絡事項を保護者に伝えていますが、また、昼礼を欠席した職員は昼礼ノートを読み、サインし情報伝達に漏れの無いようにしています。

しかし、保護者アンケートでは「日々の保育の様子の情報提供や保育について職員と話することができるか」について「いいえ」が3%、「どちらともいえない」が21%あります。

「職員からもっと子どもの様子を話してほしい」との保護者意見があり、保護者への情報の伝達や報告をより確実に実施するための工夫が期待されます。

3. 職員全員による目標設定や課題解決の体制づくり

中・長期計画は園長が中心となり作成・進捗管理していますが、職員全員での意見交換・推進・進捗管理が望まれます。

また、第三者評価結果は、園長が確認し職員に説明していますが、園長だけでなく職員全員で共有して、分析検討し課題を把握することが望まれます。そのうえで、課題の改善策・改善実施計画を策定し、課題の改善を推進することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none">・理念には「お子様が楽しく過ごし、思い出に残る保育を」「利用者のニーズにあった保育サービスの提供」が明記されており、基本方針には「子どもの自主性や自ら伸びようとする力、五感を感じる保育」など、子どもを尊重した内容が盛り込まれています。日々の保育は「保育園業務マニュアル」に基づき実施されており、子どもの尊重や基本的人権への配慮が明記されています。・子どもや保護者のプライバシー保護については「保育園業務マニュアル」や「個人情報保護マニュアル」などに明記されており、職員は認識しています。関係機関への個人情報の提供については、保護者に説明後同意を受けてから個人情報のやり取りをしています。なお、ホームページで子どもの写真を利用する際にも保護者から同意をもらっています。・虐待防止について職員は、設置法人の研修で学んでいます。職員は虐待が疑われる傷を発見したときは、「虐待防止マニュアル」に基づき写真に残し、保護者にも傷の確認をしてもらい、大きな傷の場合は設置法人と相談後児童相談所へ通報することになっています。「虐待の疑い発見フロー」を事務所に掲示し、職員に虐待児の対応を徹底しています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none">・行事後に保護者アンケートを実施し、保護者の意見、感想、要望、また、日々の保育に関する意見や要望を記入してもらい、集計結果は園長が中心になって職員会議で検討し、全職員に回覧し周知しています。把握した内容は必要に応じて園だよりに記載しています。クラス担任職員との個人面談を年2回行ない、保護者からの相談、園に対しての要望の把握に努めています。また、年度末にも行事の内容、開催時期、開催方法などについてアンケートを取っています。玄関に意見箱を設置しています。

・「入園のご案内（重要事項説明書）」に、設置法人、中原区役所保健福祉センター児童家庭課、第三者委員など相談窓口が複数あり、自由に選べることを明記し、入園前説明会で説明し、また玄関に掲示しています。保護者と個別に面談する時は相談室や空いている保育室で行っています。

・朝夕の合同保育、室内のゲーム遊びや公園での遊び、散歩などの機会に異年齢との交流の場を設けています。年齢や発達の違いに応じた環境作りを心がけています。3歳児クラスから自由に色鉛筆や折り紙粘土などを使えるようにしています。

・生活発表会のテーマは子どもの意見を中心に決めています。夏祭り、クリスマス会、節分会など季節の行事や日本の伝統文化を感じられる行事を取り入れています。

・子ども一人一人の年齢や発達に合わせ、基本的な生活習慣が身につくように、個別に対応しています。トイレトレーニングなどは保護者と連携し、手洗い、うがい、歯磨きなど、病気の予防や健康推進のための生活習慣が身につくように声かけを行っています。

・午睡時間は、年齢や発達、その日の体調や家庭での様子で保護者と相談し、疲れ気味のときは午睡時間を長くするなど調整しています。5歳児は就学に向け、1月から午睡をなくしています。

・子どもの年齢に応じて、手洗いやうがいの大切さ、病気予防になることを伝えていきます。道を歩く時のルール、公園での遊具の使い方、室内で遊ぶ時のルールなどを、子どもたちと活動する前に約束して、安全に遊べるように配慮しています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

・「保育園業務マニュアル」「衛生マニュアル」「事故防止マニュアル」、川崎市の「健康管理マニュアル」などが整備されています。また、「保育園業務マニュアル」「個人情報保護マニュアル」には、子どもを尊重した対応方法、プライバシー保護について明記しています。

・園長は随時保育室に入り標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかを確認するとともに、安全面や職員の子どもへの言葉遣いや態度について必要に応じて指導しています。

・保護者からクレームがあった時はクレーム受理票に記録し、保護者からの些細な要望や希望がある場合はその場で即答し、必要に応じて昼礼で情報提供して職員間で内容を共有しています。苦情に対してその場で即答できない時は園長に伝え、昼礼や職員会議などで対応策を検討し回答できるよう努めています。園での対応が難しい時は、設置法人の相談・調整をして、対応を決めることにしています。また、すぐに返事ができない時は事情を説明することにしています。

・各クラスの子どもの安全確保は各クラスの担当職員が実施し、危険個所があれば園長に報告しています。災害時の職員の役割分担は、通報連絡・初期消火・避難誘導・救護ごとに設定し毎月避難訓練を実施しています。事務所には「虐待フロー」「緊急フロー」「不審者対応時のフロー」が掲示され、リスクの種類別に、責任と役割を明確にしています。

・園内には、消火器・火災報知機・火災通話専用電話が設置されており、自家発電

	<p>設備が設置されています。保育室には滑り止めシートを敷いており、棚やロッカーの下には滑り止めを挟んでいます。また、災害時の備蓄品として、3日分の水・ご飯・乾パンなどを倉庫に蓄えています。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の見学者にパンフレットを配布し、園のブログで子どもたちの日常の活動や行事の様子を写真を交えて紹介し、また、設置法人のホームページに園の情報や日常保育の様子を載せています。見学に来る保護者から随時、育児相談を受ける体制があります。 ・ 中原区の幼保小園長連絡会（年2、3回）、認可保育園園長会（年3回）に園長が参加し、地域の子育て家庭状況や待機児童数を把握しています。 ・ 5歳児担当職員は年長児実務担当者会議（年2回）に参加して情報交換をし、小学校の要望などを保護者に伝えています。 ・ 今年度から5歳児がいるため、中原区が主催する、5歳児のみが集まる「中原っ子しあたー」や「保育まつり」に参加し、交流を図っています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長および職員の役割や責任については「保育園業務マニュアル」に明文化されており、全職員閲覧し理解しています。 ・ 園長は日々の保育の実施状況を把握し継続的に評価・分析しています。また、園長は各クラスに入り課題を把握・提示し保育の質の向上に努めています。 ・ 理念や基本方針は「重要事項説明書」や毎年作成する「保育課程」に明記しています。また、保育理念は設置法人のホームページや保育園のパンフレットにも記載されています。 ・ 理念・基本方針から保育園の使命・目指す方向・考え方を読み取ることができます。新入園児の保護者に対しては2月の入園説明会で説明しており、在園児の保護者に対しても4月の運営委員会で文書を配付し説明しています。 ・ 理念や基本方針の実現のに向けた中・長期計画は策定されており、目標は明確にされています。事業計画は中・長期計画から抽出した内容になっており、計画内容ごとに担当者・目標（達成時期・回数など）を定め、四半期ごとに実施計画を具体的に定めています。 ・ 園長が設置法人で定期的に行われる園長会に参加し、系列園の保育状況や会社全体の事業の動向などについて情報を得ています。また、地域での特徴については、中原区の認可保育園全体連絡会や幼保小校長・園長連絡会などで情報収集しています。 ・ 経営状況は設置法人が検討し、園長は検討結果を職員会議などで報告・周知しています。園長は職員と話し合いをしながら節電対策・備品購入などにおける経費削減についての改善に努めています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念・基本方針に設置法人の目指す方向・職員に求められる意識が明示されています。また、階層別に求められる保育実践に必要な専門知識・技術は「保育士人材育成ビジョン」に明示しています。 ・ 職員は個別に年間研修計画を作成しており、上期・下期末に評価・反省していま

す。また職員は設置法人主催の階層別研修や自由選択研修を受けることができるとともに、川崎市や中原区主催の研修も受講することができます。

- ・人事考課のための査定シートがあり、職員は期待値と自己の姿を照らして自己評価し、その結果が園長・マネジャーなどにより査定され報酬が決定されることを理解しています。年2回自己査定を行い、査定は園長・マネジャーが職員と面談しアドバイス・意見交換して決定しています。なお、査定結果は園長・マネジャーが職員と面談しフィードバックしており、査定の客観性・透明性が図られています。

- ・園長が職員の勤務状況（公休取得状況・有休消化状況・残業実施状況など）を毎月把握しています。職員の勤務状況の分析・検討は園長が行っており、分析・検討した結果と職員の休みや勤務希望を確認したうえで園長はシフトを作成し調整しています。また、改善策が必要な場合は、園長だけでなく、マネジャーや設置法人関係者と相談し対応しています。

- ・「実習生受け入れガイドライン」が整備されており、園長が受け入れの窓口となり、実習生に事前説明やオリエンテーションを実施し、その中で理念の説明や実習時の心得などについて説明しています。昨年は5月に1名の実習生を受け入れています。

〔川崎市福祉サービス第三者評価結果報告様式〕
(認可保育所版)

対象事業所名（定員）	アスク元住吉南保育園 （ 70 名）
経営主体（法人等）	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	認可保育所
事業所住所	〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月 4-1-30
事業所連絡先	044-430-3230
評価実施期間	平成28年 8月～平成29年 5月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価実施シート (管理者層合議用)	評価実施期間 平成28年11月21日～平成29年 1月23日
	(評価方法) ・園長と職員1名の合議により園長がまとめました。
評価実施シート (職員用)	評価実施期間 平成28年11月21日～平成29年 1月23日
	(評価方法) ・職員に対し評価機関が記載説明会を開催し、その後職員一人一人が個別に評価のうえ、密封、無記名で提出したものを評価機関が回収しました。
利用者調査	(配付日) 平成29年 1月 6日 ----- (回収日) 平成29年 1月16日
	(実施方法) ・全園児の保護者にアンケート用紙と返信用封筒を園から渡して、園に回収箱を備え、無記名・密封の状態で評価機関が回収しました。
評価調査者による 訪問調査	評価実施期間（実施日）／平成 28年 2月16・22日
	(調査方法) ・2名の評価調査員が2日間園を訪問し、現場観察、書類確認、職員の面接ヒアリング（園長ほか職員2名）及び子どもの観察を行いました。

[総合評価]

<施設の概要・特徴>

【立地と施設の概要】

アスク元住吉南保育園は、東急東横線元住吉駅より駅前の商店街・飲食街を通り抜け徒歩10分弱の場所にあります。抜け道の道路に面していますが、周辺にはマンション・一戸建ての住宅があり静かな環境に恵まれています。また、近隣には中原平和記念公園など7個所の公園があります。

園舎は鉄筋コンクリート2階建てで、地上園庭と屋上テラスを備え、地中熱エネルギーを利用した空調システムを備えています。

【特徴】

園目標は「えがおいっぱい げんきいっぱい やさしさいっぱい」となっています。平成25年4月の開園の保育園で、月極保育・延長保育・障がい児保育を提供し、定員70名ですが、1歳児から5歳児までの78名を受け入れています。年齢・発達に合わせてクッキング保育・英語教室・体操教室・リトミックなどを取り入れています。

[全体の評価講評]

<特によいと思う点>

1.子どもの思いに即した遊び・運動会・発表会の展開

日々の保育では子どもの意思で、遊び・絵本・おもちゃなどを自由に選べるようにしています。園庭遊びでは子ども同士でルールを決めて遊び、運動会や発表会での衣装などは子どもの好きなものを選べるようにしています。

運動会では5歳児の意見でそうらん節に決め、担任の発案で衣装の藍染めを子どもたちと一緒に楽しみました。生活発表会の劇は子どもたちの希望を取り入れて、5歳児は「桃太郎」、4歳児は「金のがちょう」、3歳児は「にんじん だいこん ごぼう」とし、せりふや動きなど子ども主体で作っています。

2.災害時などにおける消防署・警察署との協力

災害時などにおける子どもの安全確保のため、毎月避難訓練、年2回不審者対応訓練を実施しています。避難訓練では広域避難場所である中原平和公園まで全クラスで歩いています。訓練の際には、地元の消防署や警察署と連携し工夫して実施しています。地元の消防署には避難訓練時に通報訓練の協力をしてもらい、警察署には年1回不審者対応訓練で不審者役を演じてもらうなどの協力をしてもらっています。

<さらなる改善が望まれる点>

1.点検結果などの確実な記録とその活用

各クラスの安全点検はクラス担当職員が実施し、危険個所があれば園長に報告するようになっていますが、点検結果は記録されていません。点検結果を「安全チェックリスト」に記録し、昼礼などで報告し、必要な対策を講じることを期待します。

また、保護者からの意見や要望を受けた際は専用ノートやファイルに記録し、職員間で共有し、データを集積・分析して保育に反映することが望まれます。

2.保護者とのコミュニケーションの推進

お迎え時に担任がいない場合でも、遅番職員は保育日誌や昼礼ノートを見て連絡事項を保護者に伝えています。また、保護者に複数ある相談窓口の説明をし、保護者面談やアンケート、懇談会により保護者の意向をくみ取るように努めています。

しかし、保護者アンケートからは、日々の保育の様子の情報提供や職員と話をする機会、相談・苦情への対応について、20%以上の保護者がなんらかの不満を持っています。保護者へ日々の子どもの育ちの情報を伝えるさらなる工夫や相談・苦情対応の見直しが期待されます。

3.職員全員による目標設定や課題解決の体制づくり

中・長期計画は園長が中心となり作成・進捗管理されていますが、職員全員での意見交換・推進・進捗管理が期待されます。

また、第三者評価結果は、園長が確認し職員に説明していますが、園長だけでなく職員全員で共有して、分析検討し課題を把握することが望まれます。そのうえで、課題の改善策・改善実施計画を策定し、課題の改善を推進することが期待されます。

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 1 サービスマネジメントシステムの確立
<特によいと思う点> ・地元の消防署には避難訓練時に通報訓練の協力をしてもらい、警察署には年に1回不審者対応訓練で不審者役を演じてもらうなどの協力をしてもらっています。
<さらなる改善が望まれる点> ・各クラスの安全点検は担当職員が実施していますが、点検結果は記録されていません。点検結果を「安全チェックリスト」に記録し、昼礼などで報告して必要な対策を講じることを期待します。
・アクシデントレポートはパソコンに収録されており、職員が常時閲覧し注意喚起できるようにはなっていません。職員が常時閲覧できるような形にすることが望まれます。

評価分類 (1) サービスの開始・終了時の対応が適切に行われている。	A
・設置法人のHPおよびパンフレット、川崎市のHPに保育園の概要・利用条件などの情報を提供しています。また、保育園のパンフレット「入園のご案内」や「重要事項説明書」に保育園の概要を詳しく紹介しています。 ・3月に保護者に対して入園前説明会を開催し、「重要事項説明書」を配付し、サービスの内容・延長保育料金・食事代などの説明をしています。また、説明にあたってはカバンや帽子などの実物を見せて説明し、説明終了後の個人面談では保護者の質問・疑問に答えています。 ・入園前説明会で「慣れ保育」について説明し、概ね1週間程度の「慣れ保育」を実施しています。保護者の就労状況を考慮し、徐々に時間を延ばし最終的に個々の保護者の仕事復帰に合わせた保育を実施しています。また、子どもの心理的拠り所となるぬいぐるみやタオルなどの持ち込みは容認しています。 ・中原区幼稚園・保育園・小学校連携事業の中で、年長児担当職員が小学校で行われている授業参観に参加し、小学校教員から1年生になってからの様子などを聞き、また実務担当者会議にも参加して、保護者に情報提供しています。	
評価項目	実施の可否
① 保護者等（利用希望者を含む）に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	○
② サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	○
③ サービス利用開始後に、子どもの不安やストレスが軽減されるような支援を行っている。	○
④ 就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者とのかかわりに配慮されている。	○

評価分類 (2) 手順を定め、その手順に従ったアセスメントを行い、サービス実施計画を策定している。	A
・入園が決定した場合、「お子様の状況について」などの保育園指定様式による書類や川崎市から送られている「児童票」を提出してもらい、それを基にして園長・職員・栄養士が参加し保護者と子どもの入園前面談を実施しています。 ・指導計画の策定は各クラスリーダーが担当し、最終的には園長が確認承認しています。各クラスリーダーはクラスごとに年間指導計画・月案・週案を作成し、乳児クラスについては個別の指導計画を作成し、保護者の意向や離乳食に関する栄養士と連携した内容も組み込んでいます。また、クッキング保育計画や食育計画については栄養士と連携して作成しています。 ・「保育園業務マニュアル」に基づき見直しをしています。クラスリーダーは年間指導計画は四半期ごとに評価・反省して次期の計画を見直し、月案に反映しています。月案・週案も月末・週末に評価・反省し、次月・次週の計画に反映しています。なお、見直し結果は最終的には園長が確認しています。	
評価項目	実施の可否
① 手順を定め、その手順に従ってアセスメントを行っている。	○
② 指導計画を適正に策定している。	○
③ 状況に応じて指導計画の評価・見直しを行っている。	○

評価分類 (3) サービス実施の記録が適切に行われている。		A
<p>・指導計画や保育日誌の「評価・反省」欄にサービスの実施状況を記録するとともに、1歳児は毎月、2歳児以上は3か月ごとに児童票に発達状況や領域ごとの様子を記入しています。</p> <p>・記録管理の責任者は園長です。また、子どもの記録の保管・保存・廃棄については「個人情報保護マニュアル」などに定められています。</p> <p>職員は個人情報保護法を理解しており、入社時に個人情報保護に関する「誓約書」にサインしています。なお、個人情報にかかわる記入については保育園内で行うことが徹底されており、個人情報が記載されている書類は事務所の鍵付き書棚に保管されています。</p> <p>・早番から担当職員への伝達は、1歳児は「生活睡眠記録簿」を使用し、2歳児以上はクラスごとの引継ぎファイルを使用しています。担当職員から遅番へは「延長日誌」を使用し、申し送り事項欄に「申し送り表」から必要事項を転記しています。職員は昼礼でその日の子どもの様子や保護者からの連絡事項を発表し記録しています。参加できなかった職員は帰る前に昼礼ファイルを確認し情報共有しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもに関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	○
②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○
③	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している。	○

評価分類 (4) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		A
<p>・「保育園業務マニュアル」「衛生マニュアル」「事故防止マニュアル」、川崎市の「健康管理マニュアル」などが整備されています。また、「保育園業務マニュアル」「個人情報保護マニュアル」には、子どもを尊重した対応方法、プライバシー保護について明記しています。園長は随時保育室に入り標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかを確認するとともに、安全面や職員の子どもへの言葉遣いや態度について必要に応じて指導しています。</p> <p>・毎年年度末に設置法人が「保育園業務マニュアル」などの各種マニュアルの見直しを行っています。また、保育園では新年度に向けて書類・書式の必要性・使い勝手についての職員や保護者の意見を設置法人に報告し、組織全体でマニュアルなどの見直しをしています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	○
②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	○

評価分類 (5) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。		B
<p>・各クラスの子どもの安全確保は各クラスの担当職員が実施し、危険個所があれば園長に報告しています。災害時の職員の役割分担は、通報連絡・初期消火・避難誘導・救護ごとに設定し毎月避難訓練を実施しています。事務所には「虐待フロー」「緊急フロー」「不審者対応時のフロー」が掲示され、リスクの種類別に、責任と役割を明確にしています。</p> <p>・園内には、消火器・火災報知機・火災通話専用電話が設置されており、自家発電設備が設置されています。また、災害時の備蓄品として、3日分の水・ご飯・乾パンなどを倉庫に蓄えています。</p> <p>・日々の保育の中でケガ発生時には、昼礼で報告し対策を立てています。しかし、アクシデントレポートはパソコンに収録されており、職員が常時閲覧し注意喚起できるようにはなっていません。</p> <p><コメント・提言></p> <p>・ケガやヒヤリハットについて会議などで話し合うだけでなく、事故防止策を検討するためにも、ファイルにまとめて記録して職員が参考ができるような形にすることが望まれます。</p>		
評価項目		実施の可否
①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制が整備されている。	○
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	○
③	子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	●

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 2 人権の尊重
<特によいと思う点> ・日々の保育では子どもの意思で、遊び・絵本・おもちゃなどを自由に選べるようにしています。園庭遊びでは子ども同士でルールを決めて遊び、運動会や発表会での衣装などは子どもの好きなものを選べるようにしています。また、性差にとらわれず、好きな衣装や好きな色の折り紙を選ぶなど子どもたちが自由に選択できるようにしています。 ・一斉活動や散歩の際に、体調不良や行きたがらない時には無理強いせず、事務室や保育室で休息できるようにしています。また、保育中に集団に入れない時には一人でゆっくり過ごせるよう、マットを敷き落ち着ける場所を確保し対応しています。

評価分類 (1) サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
・日々の保育では子どもの意思で、遊び・絵本・おもちゃなどを自由に選べるようにしています。園庭遊びでは子ども同士でルールを決めて遊び、運動会や発表会での衣装などは子どもの好きなものを選べるようにしています。 ・理念には「お子様が楽しく過ごし、思い出に残る保育を」「利用者のニーズにあった保育サービスの提供」が明記されており、基本方針には「子どもの自主性や自ら伸びようとする力、五感を感じる保育」など子どもを尊重した内容が盛り込まれています。日々の保育は「保育園業務マニュアル」に基づき実施されていますが、子どもの尊重や基本的人権への配慮について明記されています。 ・虐待防止について職員は、設置法人の入社時研修や階層別研修・自由選択研修などで学んでいます。職員は虐待が疑われる傷を発見した時は、「虐待防止マニュアル」に基づき写真に残し、保護者にも傷の確認をしてもらい、大きな傷の場合は設置法人と相談後児童相談所へ通報します。「虐待の疑い発見フロー」を事務所内に掲示し、職員に虐待の対応を徹底しています。	
評価項目	実施の可否
① 日常の保育にあたっては、個人の意思を尊重している。	○
② 子どもを尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	○
③ 虐待の防止・早期発見のための取組を行っている。	○

評価分類 (2) 利用者のプライバシー保護を徹底している。	A
・子どもや保護者のプライバシー保護については「保育園業務マニュアル」や「個人情報保護マニュアル」などに明記されており、職員は認識しています。関係機関への個人情報の提供については、保護者に説明後同意を受けてから個人情報のやり取りをしています。なお、ホームページで子どもの写真を利用する際にも保護者から同意をもらっています。 ・一斉活動時や食事・午睡時には子どもの話をよく聞き子どもの気持ちを受け止め、無理強いすることなく支援しています。特に乳児の場合には自分の気持ちを表現することができないので、素振りや表情で子どもの気持ちを汲み取るようにしています。	
評価項目	実施の可否
① 子どもや保護者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている。	○
② 子どもの気持ちに配慮した支援を行っている。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 3 意向の尊重と自律生活への支援に向けたサービス提供
<特によいと思う点> ・行事後に保護者アンケートを実施し、保護者の意見、感想、要望、また、日々の保育に関する意見や要望を記入してもらい、把握した内容は必要に応じて園だよりに記載しています。また、年度末にも行事の内容、開催時期、開催方法などについてアンケートを取っています。検討結果は3月の運営委員会に提案し、保護者と意見交換して次年度の運営に反映しています。 ・職員は子どもの年齢や発達段階に応じて言葉かけや表情・態度で示し、また、子どもの目線に合わせ話を聞き、気持ちを汲み取るようにしています。子ども同士のトラブルは、見守りながら、できるだけ子ども同士で解決できるように支援しています。生活発表会のテーマを子どもの意見を中心に決めるなど、子どもの主体的な活動、表現が育つように支援しています。
<さらなる改善が望まれる点> ・保護者からの意見や要望を受けた際は、些細なものであっても、専用ノートやファイルに記録し職員間で共有し、データを集積して分析し保育に反映することが望まれます。

評価分類 (1) 利用者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる。	A
・行事後に保護者アンケートを実施し、保護者の意見、感想、要望、また、日々の保育に関する意見や要望を記入してもらい、集計結果は園長が中心になって職員会議で検討し、全職員に回覧し周知しています。把握した内容は必要に応じて園だよりに記載しています。クラス担任職員との個人面談を年2回行ない、保護者からの相談、園に対しての要望の把握に努めています。また、年度末にも行事の内容、開催時期、開催方法などについてアンケートを取っています。玄関に意見箱を設置しています。 ・検討結果は3月の運営委員会に提案し、保護者と意見交換して次年度の運営に反映しています。	
評価項目	実施の可否
① 利用者満足の把握に向けた仕組みを整備している。	○
② 利用者満足の向上に向けた仕組みを整備し、サービス向上に取り組んでいる。	○

評価分類 (2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	B
・入園のご案内（重要事項説明書）で、設置法人本部、中原区役所保健福祉センター児童家庭課、第三者委員など相談窓口が複数あり、自由に選べることを明記し、入園前説明会で説明し、また玄関に掲示しています。保護者と個別に面談する時は相談室や空いている保育室で行っています。 ・保護者からクレームがあった時はクレーム受理票に記録し、保護者からの些細な要望や希望がある場合はその場で即答し、必要に応じて昼礼で情報提供して職員間で内容を共有しています。しかし、専用ノートやファイルなどに記録はしていません。 ・苦情に対してその場で即答できない時は園長に伝え、昼礼や職員会議などで対応策を検討し回答できるよう努めています。園での対応が難しい時は、マネージャーや設置法人の運営支援課と相談、調整をして、対応を決めることにしています。また、すぐに返事ができない時は事情を説明することになっています。 <コメント・提言> 保護者からの些細な意見や要望を受けた際は、専用ノートやファイルに記録して職員間で共有し、データを集積して分析し保育に反映することが望まれます。	
評価項目	実施の可否
① 子どもや保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	○
② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	●
③ 子どもや保護者からの意見等に対して迅速に対応している。	○

評価分類 (3) 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・入園時に保護者から「児童家庭調査票」など書面で受け取り、一人一人の発達状況、家庭環境を把握しています。職員は子どもの年齢や発達段階に応じて言葉かけや表情・態度で示し、また、子どもの目線に合わせ話を聞き、気持ちを汲み取るようにしています。子ども同士のトラブルは、見守りながら、できるだけ子ども同士で解決できるように支援しています。 ・朝夕の合同保育、室内のゲーム遊びや公園での遊び、散歩などの機会に異年齢との交流の場を設けています。年齢や発達の違いに応じた環境作りを心がけています。3歳児クラスから自由に色鉛筆や折り紙粘土などを自由に使えるようにしています。 ・生活発表会のテーマは子どもの意見を中心に決めています。夏祭り、クリスマス会、節分会など季節の行事や日本の伝統文化を感じられる行事を取り入れています。 ・職員は設置法人の階層別研修で虐待や発達支援について学び、障がいのある子どもには支援計画があり加配保育士がついています。川崎市中央療育センターや設置法人の発達支援チームと連携をとっています。 		
評価項目		実施の可否
①	子ども一人ひとりを受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて働きかけや援助が行われている。	○
②	様々な人間関係や友達との協同的な体験ができ、生活が豊かになるような環境が整備されている。	○
③	子どもが主体的に活動し、自分を表現し、他者の表現を受け入れる力が育つように支援している。	○
④	特別の配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	○

<サービス実施に関する項目>

共通評価領域 4 サービスの適切な実施
<特によいと思う点> ・子ども一人一人の年齢や発達に合わせ、基本的な生活習慣が身につくように、個別に対応しています。食事では個々の食事量、ペース、好き嫌いを把握し、子どもが意欲的に食事するように適切な声かけをしています。箸の使用、トイレトレーニング、歯磨きなどは保護者と連携を取り、個別に対応しています。 ・園として、「家庭と同じ雰囲気楽しく食べる」ことを第一に考えて援助をしています。毎月クッキング保育を行い、食材に触れ、実際に調理して食に関心を持ち、食べる意欲を高めるようにしています。アレルギー児用の食事は給食室内で栄養士と調理士、給食を取りに来た職員と調理士で除去食を相互に声を出して確認し、配膳時に2名の職員が声を出して再確認しています。
<さらなる改善が望まれる点> ・保護者への伝達や報告をより確実に実施することが期待されます。

評価分類 (1) 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている。	B
・登園時に保護者から子どもの体調や様子を聞き、「生活・睡眠記録簿」の「家庭からの連絡」欄、各クラスの引継ぎノートに記入し、早番職員から担任へ口頭でも伝達しています。 ・子ども一人一人の年齢や発達に合わせ、基本的な生活習慣が身につくように、個別に対応しています。トイレトレーニングなどは保護者と連携を取り、手洗い、うがい、歯磨きなど、病気の予防や健康推進のための生活習慣が身につくように声かけを行っています。 ・午睡時間は、年齢や発達、その日の体調や家庭での様子で保護者と相談し、疲れ気味のときは午睡時間を長くするなど調整しています。5歳児は就学に向け、1月から午睡をなくしています。 ・昼礼でその日の子どもの様子を話し合って共有し、遅番職員は保育日誌や昼礼ノートを見て連絡事項を保護者に伝えていますが、保護者アンケートからは不満の声もあります。 ・年2回の個人面談やクラス懇談会、行事後のアンケート、年度末に行う保育全般や行事に関する振り返りアンケートを通じて保護者の考えや提案を聞く機会を設けています。 <コメント・提言> ・保護者への伝達や報告をより確実に実施することが期待されます。	
評価項目	実施の可否
① 登園時に家庭での子どもの様子を保護者に確認している。	○
② 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるよう支援を行っている。	○
③ 休息（昼寝も含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している。	○
④ お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている。	●
⑤ 保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設けている。	○

評価分類 (2) 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	A
・その日の子どもの人数や様子に応じて、保育室内にマットや机でコーナーを作り、自由に好きなおもちゃや遊びをして、遊びに集中したり静かに過ごせるように配慮しています。遊びに入っていない子どもには、職員がスキンシップをとるなど個別に触れ合って安心感を与えるようにしています。 ・午後のおやつ後は、乳児と幼児に分かれて2階の室内や園庭で過ごし、夕方以降は原則として合同保育になり室内でブロックで遊んだり絵本を読んで過ごし、職員が仲立ちをしながら一緒に遊ぶなど、異年齢で楽しく過ごせるよう配慮しています。	
評価項目	実施の可否
① 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	○
② 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている。	○

評価分類 (3) 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している。		A
<p>・園として、「家庭と同じ雰囲気楽しく食べる」ことを第一に考えて援助をしています。毎月クッキング保育を行い、乳児は食材に触れ、幼児は実際に調理し、プランターでじゃがいも、オクラなどを栽培し、収穫した野菜を給食に入れたり、クッキングの食材として利用しています。</p> <p>・旬の食材を用い、月1回給食会議を行い、残食状況、人気のメニュー、味付けなどを検討しています。毎月「おたのしみランチメニュー」があり、旬の食材や季節感のある給食を提供しています。盛り付けや色どりを工夫し、子どもたちも楽しみながら食事をしています。</p> <p>・登園時に体調のすぐれない子どもの食事については、保護者に確認、相談し、栄養士と連携をとり、牛乳をお茶に代え、別の調理法で提供したり、ご飯をお粥に変えるなど対応しています。</p> <p>・アレルギー児用の食事は給食室内と保育室内で複数の職員が除去食内容を確認しています。外国籍の保護者の子どもが在籍していますが、宗教上の制約で食べられないものは特にありません。</p> <p>・毎月献立表を保護者に配付し、その日の給食サンプルを玄関に展示しています。1年に一度、保護者の給食試食会を行っています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	子どもが楽しく、落ち着いて食事を取れるような雰囲気作りに配慮している。	○
②	メニューや味付けなどに工夫をしている。	○
③	子どもの体調や文化の違いに応じた食事（アレルギー対応を含む）を提供している。	○
④	保育所の食事に関する取組を保護者に対して伝える活動をしている。	○

評価分類 (4) 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている。		A
<p>・子どもの年齢に応じて、手洗いやうがいの大切さ、病気予防になることを伝えています。また道を歩く時のルール、公園での遊具の使い方、室内で遊ぶ時のルールなど子どもたちと活動する前に約束して、安全に遊べるように配慮しています。</p> <p>・内科健診は1歳児は毎月、2歳児以上は年3回、歯科健診は年1回実施し、健診結果は健康診断記録表、歯科健診表に記録し、保護者に書面で伝えています。</p> <p>・入園前説明会で感染症について書面と口頭で説明しています。乳幼児突然死症候群（SIDS）予防のため、1、2歳児は10分毎に呼吸チェックを行っています。園内で感染症が発生した場合は、玄関に感染症の情報と発生状況などを掲示しています。中原区の感染症状況については、保育園サーベイランス情報で入手し、どこで何の感染症が発症したかを把握しています。</p>		
評価項目		実施の可否
①	けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている。	○
②	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	○
③	保護者に対して感染症や乳児突然死症候群（SIDS）等に関する情報を提供し、予防に努めている。	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 5 運営上の透明性の確保と継続性
<特によいと思う点> ・理念・基本方針から保育園の使命・目指す方向・考え方を読み取ることができます。新入園児の保護者に対しては2月の入園説明会で説明しており、在園児の保護者に対しても4月の運営委員会で文書を配付し説明しています。また、欠席者に対しても後日資料を配付しています。
<コメント・提言> ・中・長期計画は園長が中心となり作成・進捗管理していますが、職員全体での意見交換・推進・進捗管理が期待されます。また、中・長期計画、事業計画は保護者に説明していませんが、運営委員会などで事業計画の話をする事により、今後保育園が目指す方向に対する保護者の理解が進むと期待されます。 ・第三者評価の結果は園長だけでなく、職員全員で共有して、分析検討し課題を把握する必要があります。そのうえで、課題の改善策・改善実施計画を策定し、課題の改善を実施することが期待されます。

評価分類 (1) 事業所が目指していること（理念・基本方針）を明確化・周知している。	A
・理念や基本方針は「重要事項説明書」や毎年作成する「保育課程」に明記しています。また、保育理念は設置法人のホームページや保育園のパンフレットにも記載されています。理念・基本方針から保育園の使命・目指す方向・考え方を読み取ることができます。新入園児の保護者に対しては2月の入園説明会で説明しており、在園児の保護者に対しても4月の運営委員会で文書を配付し説明しています。 ・理念の「思い出に残る保育」の実現のために行事ごとに話し合いを設け、「安全・安心を第一に」では日々のアクシデントの際に話し合われた内容を職員会議などで職員に報告し、事故などの再発防止に努めています。 ・入園説明会時に保護者に説明するとともに、毎年4月の運営委員会で在園児の保護者にも再度説明しています。また、欠席者に対しても後日資料を配付しています。	
評価項目	実施の可否
① 理念・基本方針を明示している。	○
② 理念・基本方針について、職員の理解が深まるような取組を行っている。	○
③ 理念・基本方針について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取組を行っている。	○

評価分類 (2) 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる。	B
・理念や基本方針の実現のに向けた中長期計画は策定されており、目標は明確にされています。 ・事業計画は中・長期計画から抽出した内容になっており、計画内容ごとに担当者・目標（達成時期・回数など）を定め、四半期ごとに実施計画を具体的に定めています。 ・事業計画は四半期ごとに実施計画が設定されており、四半期ごとに実施結果を把握し評価反省しています。 ・事業計画は職員会議で説明し職員に周知しています。各計画を分かりやすく説明した資料は作成していませんが、事業計画そのものが分かりやすくなっています。 ・保護者向けに分かりやすい資料の作成はしていません。また、運営委員会などでの説明もしていません。	
<コメント・提言> ・中・長期計画は園長が中心となり作成・進捗管理していますが、職員全体での意見交換・推進・進捗管理が期待されます。 ・中・長期計画、事業計画が作成されているので、運営委員会などで事業計画の話をする事により、今後保育園が目指す方向に対する保護者の理解が進むと期待されます。	
評価項目	実施の可否
① 理念・基本方針の実現に向けた中・長期計画が策定されている。	○
② 中・長期計画を踏まえた年度単位の事業計画が策定されている。	○
③ 事業計画の策定が組織的に行われている。	○
④ 事業計画が職員に周知されている。	○
⑤ 事業計画が保護者等に周知されている。	●

評価分類 (3) 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・園長および職員の役割や責任については「保育園業務マニュアル」に明文化されており、全職員閲覧し理解しています。 ・園長は日々の保育の実施状況を把握し継続的に評価・分析しています。また、園長は各クラスに入り課題を把握・提示し保育の質の向上に努めています。 ・人事・労務・財務などについては設置法人が対応しています。設置法人で検討した結果は園長会で周知されるので、園長はそれらの情報を職員会議などで職員に周知し必要な対応をしています。 		
評価項目		実施の可否
①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	○
②	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	○
③	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	○

評価分類 (4) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		C
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を毎年受審しており、その際保育園としても自己評価を実施しています。評価結果を園長が確認し、職員会議で職員に説明していますが、具体的な分析検討はされていません。 ・評価結果の分析は園長が行い、職員会議で職員と共有していますが、検討する場や課題設定の場は設けていません。改善策や改善実施計画は策定されておらず、途中での評価見直しも実施されていません。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、第三者評価結果は、職員全体で分析検討することにより職員の意識が大きく高まると期待されます。 ・第三者評価の結果は園長だけでなく、職員全員で共有して、分析検討し課題を把握する必要があります。そのうえで、課題の改善策・改善実施計画を策定し、課題の改善を実施することが期待されます。 		
評価項目		実施の可否
①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	●
②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	●

評価分類 (5) 経営環境の変化等に適切に対応している。		B
<ul style="list-style-type: none"> ・園長が設置法人で定期的開催される園長会に参加し、系列園の保育状況や会社全体の事業の動向などについて情報収集しています。また、地域での特徴については、中原区の認可保育園全体連絡会や幼保小校長・園長連絡会などで情報収集しています。 ・経営状況は設置法人が検討し、検討結果は園長会で周知されるので、園長はそれらの情報を自園の職員会議などで報告・周知しています。園長は職員と話し合いをしながら節電対策・備品購入などにおける経費削減について改善に努めています。中・長期計画や事業計画では保育のサービス面のことを対象にしており、サービスのコスト分析などについては現在は対象にしていません。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・長期計画の目標は「地域との連携を高める」「保育の質を高める」「子どもの遊びが発展できる環境づくり」となっており、経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みは、直接的には関係ないと思われませんが、間接的には関連性もあるので事業計画見直しの際に 		
評価項目		実施の可否
①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	○
②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	●

<組織マネジメントに関する項目>

<p>共通評価領域 6 地域との交流・連携</p>
<p><特によいと思う点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中原区の幼保小園長連絡会（年2～3回）、認可保育園園長会（年3回）に園長が参加し、5歳児担当職員は年長児実務担当者会議（年2回）に参加して情報交換をし、小学校の要望などを保護者に伝えていきます。今年度から5歳児がいるため、中原区が主催する、5歳児のみが集まる「中原っ子しあたー」や「保育まつり」に参加し、交流を図っています。
<p><さらなる改善が望まれる点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への施設の開放、保育についての専門的な技術講習会や研修会、育児相談事業など、保育に関する園の専門性を地域住民に提供することが期待されます。
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にボランティアを受け入れることが期待されます。

<p>評価分類 (1) 地域との関係が適切に確保されている。</p>	B
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の見学者にパンフレットを配布し、園のブログで子どもたちの日常の活動や行事の様子を写真を交えて紹介し、また、設置法人のホームページに園の情報や日常保育の様子を載せています。 ・見学に来る保護者から随時、育児相談を受ける体制がありますが、地域への施設の開放や講習会や研修会はありません。 ・受入れマニュアルに、登録手続き、事前説明、個人情報保護の誓約書の提出などの必要事項を記載しています。受け入れにあたり、園長はプライバシーの尊重や守秘義務などを説明し、誓約書を取り交わすことになっていますが、ボランティアの受け入れはありません。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への施設の開放、保育についての専門的な技術講習会や研修会、育児相談事業など、保育に関する園の専門性を地域住民に提供することが期待されます。 ・積極的にボランティアを受け入れることが期待されます。 	
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>
<p>① 地域社会に対して、開かれた組織となるよう、事業所に関する情報を開示している。</p>	○
<p>② 事業者が有する機能を地域に提供している。</p>	●
<p>③ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	●

<p>評価分類 (2) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>	A
<ul style="list-style-type: none"> ・中原区の幼保小園長連絡会（年2～3回）、認可保育園園長会（年3回）に園長が参加し、5歳児担当職員は年長児実務担当者会議（年2回）に参加して情報交換をし、小学校の要望などを保護者に伝えていきます。 ・今年度から5歳児がいるため、中原区が主催する、5歳児のみが集まる「中原っ子しあたー」や「保育まつり」に参加し、交流を図っています。 ・中原区の幼保小園長連絡会、認可保育園園長会に園長が参加し、地域の子育て家庭状況や待機児童を把握しています。 	
<p>評価項目</p>	<p>実施の可否</p>
<p>① 関係機関・団体との定期的な連絡会等に参画している。</p>	○
<p>② 地域の関係機関・団体の共通の課題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p>	○
<p>③ 地域の福祉ニーズを把握するため事業・活動に参加している。</p>	○

<組織マネジメントに関する項目>

共通評価領域 7 職員の資質の向上の促進
<特によいと思う点> ・年3回自己査定を行い、査定は園長・マネジャーが職員と面談しアドバイス・意見交換して決定しています。なお、査定結果は園長・マネジャーが職員と面談しフィードバックしており、査定の客観性・透明性が図られています。
<さらなる改善が望まれる点> ・実習生の受け入れは、保育園が地域に対して開かれた組織となるためにも有効な対策です。待つだけでなく、掲示するなどして、実習生の積極的な開拓受け入れが望まれます。
・職員は研修受講後の発表により、職員の研修の理解がさらに進み、発表する力やまとめる力などの向上が期待されます。

評価分類 (1) 事業者が目指しているサービスを実現するための人材構成となるよう取り組んでいる。	A
・設置法人の人事管理部門で、職員採用、人員体制、人事管理を担当しており、人事管理方針が確立しています。 ・保育園運営に必要な資格を保有する人材の確保は設置法人の人事管理部門が担当しています。 ・「就業規則」に服務規程・倫理規定・機密保持規定が規定されています。また、「保育園業務マニュアル」「個人情報保護マニュアル」に法令順守や個人情報保護について規定されています。 ・人事考課のための査定シートがあり、職員は期待値と自己の姿を照らして自己評価し、その結果が園長・マネジャーなどにより査定され報酬が決定されることを理解しています。 ・「実習生受け入れガイドライン」が整備されており、園長が受け入れの窓口となり、実習生に事前説明やオリエンテーションを実施し、その中で理念の説明や実習時の心得などについて説明しています。昨年は5月に1名の実習生を受け入れています。 <コメント・提言> ・実習生の受け入れは、保育園が地域に対して開かれた組織となるためにも有効な対策です。待つだけでなく、掲示するなどして、実習生の積極的な開拓受け入れが望まれます。	
評価項目	実施の可否
① 必要な人材や人員体制に関する具体的な考え方が確立している。	○
② 具体的なプランに基づく人材の確保に取り組んでいる。	○
③ 遵守すべき法令・規範・倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	○
④ 職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格など）が連動した人材マネジメントを行っている。	○
⑤ 実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	○

評価分類 (2) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	B
・理念・基本方針に設置法人の目指す方向・職員に求められる意識が明示されています。また、階層別に求められる保育実践に必要な専門知識・技術は「保育士人材育成ビジョン」に明示しています。 ・職員は個別に年間研修計画を作成しており、上期・下期末に評価・反省しています。また、職員は設置法人主催の階層別研修や自由選択研修を受けることができるとともに、川崎市や中原区主催の研修も職員は受講することができます。 ・研修を修了すると職員は全員研修報告レポートを作成し園長に提出しています。また、研修内容を発表する機会は未だ設定されていません。なお研修レポートは職員全員に回覧しています。 <コメント・提言> ・職員は研修受講後の発表により、職員の研修の理解がさらに進み、発表する力やまとめる力などの向上が期待されます。	
評価項目	実施の可否
① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○
② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	○
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	●

評価分類 (3) 職員の就業状況に配慮がなされている。		A
<ul style="list-style-type: none"> ・園長が職員の勤務状況（公休取得状況・有休消化状況・残業実施状況など）を毎月把握しています。職員の勤務状況の分析・検討は園長が行っており、分析・検討した結果と職員の休みや勤務希望を確認したうえで園長はシフトを作成し調整しています。また、改善策が必要な場合は、園長だけでなく、マネジャーや設置法人関係者と相談し対応しています。 ・福利厚生事業として、職員は年に1回定期健康診断を受けています。また、職員は設置法人が契約する福利厚生施設（スポーツセンター他）の利用ができるようになっています。 ・外部委託のメンタルヘルスチェックを年1回受けており、職員悩み相談窓口として、設置法人の臨床心理士・産業医に相談する仕組みがあります。 		
評価項目		実施の可否
①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○
②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	○

認可保育所 利用者調査項目（アンケート）

2017/4/24

対象事業所：アスク元住吉南保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

●アンケート送付数（対象者数）（ 70 ）人

●回収率 56%（ 39 ）人

サービスの提供

利用者調査項目		はい	いいえ	どちらとも いえない	無回答	計
1	子どもが生活する保育室は、落ち着いてすごせる雰囲気 に整えられていますか。	37 人	0 人	2 人	0 人	39 人
		95%	0%	5%	0%	
2	保育中の発熱や体調不良、ケガなどの対応、保護者への 連絡等は適切ですか。	35 人	1 人	3 人	0 人	39 人
		90%	3%	8%	0%	
3	食事・おやつなどのメニューは、子どもの状態に配慮さ れた工夫がありますか。	37 人	1 人	1 人	0 人	39 人
		95%	3%	3%	0%	
4	日々の保育の様子が情報提供されており、保育について 職員と話をすることができますか。	30 人	1 人	8 人	0 人	39 人
		77%	3%	21%	0%	
5	季節や自然、近隣とのかかわりが保育の中に感じられま すか。	34 人	1 人	4 人	0 人	39 人
		87%	3%	10%	0%	
6	各種安全対策に取り組まれていますか。	34 人	1 人	4 人	0 人	39 人
		87%	3%	10%	0%	

利用者個人の尊重

7	お子さんは保育所で大切にされていると思いますか。	35 人	1 人	3 人	0 人	39 人
		90%	3%	8%	0%	
8	職員はあなたやあなたの子どものプライバシー（秘密） を守っていますか。	37 人	1 人	1 人	0 人	39 人
		95%	3%	3%	0%	

相談・苦情への対応

9	保護者が子育てで大切にされていること等について、職 員は話を聞く姿勢がありますか。	31 人	4 人	4 人	0 人	39 人
		79%	10%	10%	0%	
10	要望や不満があったとき、第三者委員（保育所外の苦情 解決相談員）などに相談できることを知っていますか。	26 人	12 人	1 人	0 人	39 人
		67%	31%	3%	0%	
11	保育所は、要望や不満などに、きちんと対応しています か。	29 人	5 人	4 人	1 人	39 人
		74%	13%	10%	3%	

周辺地域との関係

12	周辺地域、関係機関と園との関係は、良好であると思 いますか。	34 人	0 人	5 人	0 人	39 人
		87%	0%	13%	0%	

利用前の対応

13	【過去1年以内に利用を開始され、利用前に説明を受け た方に】入園に際し保育所から受けたサービス内容や利 用方法の説明は、わかりやすかったですか。	14 人	0 人	1 人		15 人
		93%	0%	7%		

アスク元住吉南保育園 平成 28 年度第三者評価事業者コメント

【受審の動機】

公正で信頼のある第三者機関により、専門的かつ客観的な視点で評価をしていただくことは、日頃の保育園運営を振り返り、今後の課題を見出すための有効な手段であると考え、毎年第三者評価を受審しております。

開園当初より、同じ評価機関に評価を依頼し、一貫した調査を受けることで毎年比較がしやすく、運営方針も十分ご理解いただけた上で調査を実施していただけたと考えております。保護者の方の生の声と、職員の保育園に対しての思いを見直す良い機会になると考え、受審いたしました。

【受審した結果】

今年度も評価を受け、自分たちの保育を客観的に見直すきっかけとなりました。

今年度、多くの A 評価をいただくことができました。特に日頃力を入れて取り組んでいる子どもの思いに即した遊び・運動会・発表会の展開について好評価をいただき、嬉しく思っています。保護者アンケートでも、「子どもが生活する保育室は、落ち着いて過ごせる雰囲気を整えられていますか」「職員はあなたやあなたの子どものプライバシーを守っていますか」という日々の保育内容や保護者の方との関わりに関する項目で、「はい」が 95%という大変嬉しい結果が出ております。入園に際しての説明のわかりやすさについても、「わかりやすかった」が 93%となっており、今後入園される方にも引き続き、保育園に入園するにあたって、不安がなくなるような対応を続けてまいります。

また、「日々の保育の様子が情報提供されており、保育について職員と話をすることができますか」という点が今後の課題としてあげられており、相談や苦情について、保護者とのコミュニケーションに引き続き力を入れていきたいと考えています。